



東京の会通信

No.326

2026年5月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail.marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100円

震災の想いをつなぎ、未来へ — 第15回防災フェア —

3月8日(日)、西新宿角三町会と東京新都心ライオンズクラブによる「第15回防災フェア&チャリティイベント」が、新宿中央公園「水の広場」にて開催されました。東日本大震災の復興支援をきっかけに2012年から始まったこのイベントに、東京の会は第2回目から参加しています。

献血車が来るようになったのは第5回目からで、それまではライオンズクラブの復興支援の精神に共感して少しでもイベントを盛り上げようとチャリティー販売などを行っていましたが、今では毎年恒例の大切なドナーリクルートの場にもなっています。

当日の参加者に、イベントの様子と感想を投稿いただきました。

防災フェアで広がる思いやりの輪

3月8日、新宿中央公園で開催された「第15回防災フェア&チャリティイベント」に参加しました。東日本大震災の教訓を忘れず、防災意識を次世代へつなぐために始まったこの催しも、今回で15回目を数えます。今回も例年通り献血車が2台出動し、私達は隣接したブースにて、ドナー登録説明を務めました。

ステージでの演舞が10組あり、小学生の和太鼓や高校生の吹奏楽演奏などもあり、非常にかわいらしかったです。参加した高校生の中には初めての献血という方もいらっしゃいました。その方たちはまだ登録はできませんが、骨髄バンクの説明をしたところ、真剣に耳を傾けてくださいました。時が来たら登録をしてくださるそうです。そんな架け橋を築くことの意義を再確認しました。

一見、防災と骨髄ドナー登録は結びつかないように感じます。しかしどちらも、いつ訪れるかわからない困難に対する大切な備えなのだ強く実感しました。震災の記憶を風化させず、互いに助け合う精神を形に



する。この場で生まれた温かな繋がりが、一人でも多くの命を救う希望となることを切に願っています。
(桑田久美子)

新しい役割で広がった、防災フェアの楽しさ

3月8日に行われた新宿防災フェアは天候にも恵まれ、イベントが大成功を取めました。私は昨年、説明員として、初めてのボランティア体験をし、今年は販売員として新たな役割で参加いたしました。おかげで、東京の会の活動の全体像がより一層理解できたと思います。

販売した菓子パンは、美味しく大変好評を得ました。また、お面の価格設定が手頃だったため、多くの親子連れの方々にご購入いただきました。

各ブースでは、非常に活気があり特に印象深かったのは、ライオンズクラブの方々が募金活動を行ってくださる姿でした。その姿勢には深い感銘を受けました。関係者の皆様に感謝申し上げます。

次回もまた、素晴らしいイベントになることを期待しております。私も来年も参加し、東京の会に貢献できるよう努めたいと思います。

まだまだ説明員として未熟な点が多々ございますが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(小野田京子)



骨髄バンク支援の想いを胸に、東京を駆ける

春の訪れを感じる晴天のもと、3月1日（日）に東京マラソン2026が開催されました。東京マラソンは、寄付を通じて参加するチャリティーランナー制度があり、東京の会も所属するボランティアの全国組織、全国骨髄バンク推進連絡協議会もその寄付先団体の一つとして、多くの支援をいただいています。

今年も東京の会は神奈川の会の仲間とともに沿道に立ち、『骨髄バンク』ののぼりを掲げてチャリティーランナーの皆さんへ声援を送りました。国内外から集まったランナーそれぞれの想いに触れ、応援する私たちも大きな力をもらった一日となりました。

応援に参加したメンバーが当日の様子をお伝えします。

「東京マラソン2026」沿道応援をしました

2026年3月1日、東京都庁をスタート。都内の名所を巡り、東京駅前・行幸通りがゴールです。スタートから約10キロ、「東日本橋」付近から応援しました。晴天で風もなく、ランナーにとっては絶好の天気の中、42.195キロを走ります。びっくりするほどたくさんのランナーが参加していました。

応援グループは、スマホに現在の走行位置がわかるアプリ「応援navi」をインストールします。一人で4人の選手を登録します。すると、現在走っている選手の位置が表示されます。

全国協議会では、「東京の会」「神奈川の会」の混成応援チームを作り、「もうすぐ〇〇さんが走ってきます。みんなで応援しましょう！」と呼びかけます。「骨髄バンク いのちのタスキリレー」ののぼりを持って



応援します。「頑張っ！ファイト！ファイト！」と力を込めて応援しました。走っているランナーからも「おー、骨髄バンク！」と声をかけてもらい、笑顔で手を振ってくれました。

次回も、骨髄バンクの活動を支援された方が笑顔で走れますように。
(安藤博文)

東京マラソン2026沿道応援に参加して

去る3月1日に行われた東京マラソン2026の沿道応援に参加してきました。東京マラソンはワールド・マラソン・メジャーズの一つであるため、外国人選手がとても多かったです。東京マラソンのほかには、ボストン（アメリカ）、ロンドン（イギリス）、ベルリン（ドイツ）、シカゴ（アメリカ）、ニューヨーク（アメリカ）、シドニー（オーストラリア）があり、これらを完走したランナーには特別な完走証やメダルが贈呈されます。

東京マラソンに出場したくて申し込んでも、いつも抽選に外れてしまう方もたくさんいらっしゃると思います。しかし、10万円以上を特定の団体に寄付すれば、必ず走ることができます。全国協議会はそのような寄付先の一つであり、ありがたく寄付していただいた方々を、復路の東日本橋駅近くの清杉通り沿いで、それぞれの選手の名前を呼んで応援しました。

応援naviというアプリを使ってゼッケン番号を登録すれば、その方が今どこを走っているのかが分かります。ただ、皆さん速く走り過ぎてしまうため、正直なかなか見つけることができませんでした。願わくば、寄付して下さった方々に気付いていただければ幸いです。

私は個人的に今年初めて参加したため、あまり要領が分かりませんでした。来年はもう少し積極的に参加したいと思います。
(笠原誠)

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2026.2.16~4.15)

石坂直美さん 7,000円 / 小松崎辰哉さん 12,000円 / 武正恵子さん 17,000円
松崎内科クリニック募金箱寄付 松崎道男さん 16,680円

お寄せいただいたご寄付から、年会費を差し引いて掲載させていただきます。

東京の会 「5月、6月定例会」 のお知らせ

5月16日(土)午後5時30分より 6月20日(土)午前5時30分より

会場：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）
交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分
都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分
JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

定例会は、現地会議室集合以外に、オンライン（Zoom）での参加も可能です。

つなげる想い、広がる力

— 関東甲信越ブロックセミナー開催 —

4月11日（土）、船橋市勤労市民センターで、全国骨髄バンク推進連絡協議会主催による「関東甲信越地区ブロックセミナー」が開催され、東京・神奈川・千葉・埼玉のボランティア36名が集まりました。記念講演は千葉大学医学部附属病院輸血・細胞療法部部长で血液内科准教授の三村尚也先生による「CAR-T細胞療法について」でした。講演後は参加者一人一人が自己紹介と日ごろの活動について発言し、活動の交流を図りました。終了後は懇親会で旧交を温め、また新たな仲間と出会って、今後の活動への活力を養いました。

学びと交流の場—関東ブロックセミナーを振り返って

まだ4月なのにもう夏のような気温になった4月11日、全国協議会の関東甲信越地区ブロックセミナーが、千葉県船橋市勤労市民センターで行われました。

参加団体の千葉、神奈川、埼玉、東京の各会代表の挨拶から始まり、千葉大学医学部附属病院の三村尚也先生から「CAR-T細胞療法」について講演いただきました。この悪性リンパ腫と多発性骨髄腫に対する新しい治療は、患者さん自身の末梢血からリンパ球を採取して、それに腫瘍を認識する部位とT細胞を活性化する信号を伝える部位を付けて、体外で増幅させ、それを患者さんの体内に戻して腫瘍細胞を撃退する治療法だと説明がありました。

採取したリンパ球は冷やしてアメリカへ送り、アメリカの製薬会社で1ヶ月ほどかけてCAR-T細胞にして、液体窒素で凍らせて日本に戻して治療に使われる、大変高額な薬価ではあるけれど保険が適応されることで、治療の早い段階で状態の良いリンパ球を採取してCAR-T細胞にすると効果が出やすく、予後が良いとのこと。

悪性リンパ腫と多発性骨髄腫以外の病気の治療にもCAR-Tが使われるようになっていく可能性があるとのことのお話で、これまで治療が難しいと言われていた病気に新しい治療法が確立されていくことに、医学の進歩の素晴らしさとそのありがたさを感じました。

セミナーの後半は参加者全員からボランティアを始めたきっかけや現在取り組んでいる活動について話す場が設けられ、私からは東京の登録会に千葉、埼玉、神奈川からも説明員が参加協力してくださるよう

なって登録会回数が増えたことを話し、お礼と今後も継続的な協力をお願いしました。（松下倫子）

学びと再会に満ちたセミナーの一日

私にとって2020年からのコロナ禍は忘れられません。妹と私は同時にがんを発病し私は腎臓摘出手術をして、妹は辛い治療後亡くなりました。東京の会の事務所は全国協議会に移り、私は事務所で会計と電話係のボランティアから引退しました。Zoomによる定例会では皆さまの活躍を知るたびに感謝の思いでいっぱいでした。

4月11日（土）の関東甲信越地区ブロックセミナーに行ってもその活動報告をお聞きしたいと、船橋市勤労市民センターに出かけました。東京、千葉、埼玉、神奈川の会から30人以上が参加され、記念講演は千葉大学医学部附属病院血液内科の三村尚也先生による「CAR-T細胞療法について」という貴重なお話をうかがう事ができました。

患者から採取されたT細胞をアメリカに送り、1ヶ月以上かかったあと日本の患者の体内に戻すという治療なので、なぜアメリカなのか？費用は？と気になっていましたが、若木さんが私の疑問と同じ事を質問してくださったので納得しました。

参加された皆様からの自己紹介と活動報告では、日頃の活動を熱心に語られる人たちの熱い思いが伝わり、何もできない自分が情けないと感じました。セミナー終了後の懇親会では何年ぶりかにお会いした懐かしい方々とお話しをして、ボランティア仲間との同窓会のように、体力的には少し不安でしたが、今回のセミナーに参加して良かったと思いました。（大塚礼子）

東京の会定期総会のお知らせ

東京の会の定期総会を下記の日時で開催します。昨年度1年間の活動方向や会計報告をみんなで聞いて確認し、新たな1年に向けて役員を選任や活動方針の宣言を行う、年に1度の集まりです。昨年までお世話になった全労済の会議室ではなく初めての会場となりますが、大崎駅徒歩1分の駅近ですので、皆様是非お集りください。

終了後には近くのお店でランチ懇親会を行います。普段なかなか活動に参加できない方も、この日だけは東京の会の仲間と親交を深め、楽しい時間を共有しましょう。たくさんの方とお会いできるのを楽しみにしています。

日時：2026年6月27日（土）11時～13時30分

11:00～東京の会総会開始

11:40～特別講演会HCTCの活動について

13:30～昼食懇親会（詳細別途）

場所：ゲートシティ大崎ウエストタワー 8階

プルデンシャル生命保険（株）セミナールーム

■JR山手線 大崎駅南口改札直結（駅徒歩1分）

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目11-1-8階

<https://maps.app.goo.gl/m39VrsGaNo5hSs3TA>

※詳細は今月号に同封のチラシをご覧ください。

編集者

雑記



▼日本骨髄バンクでは、採血でのドナー登録以外に、スワブでのドナー登録を2026年度内に本格稼働させます。スワブとは先端がブラシのようにになっている綿棒状の医療器具で、頬の内側や舌の裏をこすことで口腔粘膜細胞を採取することができます。口腔粘膜細胞の核に含まれるDNAでHLA型検査を実施し、ドナー登録を行うものです。なお、コロナやインフルエンザの検査とは違い、鼻ではなく口での採取となります。

▼この間、日本での運用を開始するために、2025年から実証実験を実施してきました。従来の採血による検査と同等の精度が求められるため、検査会社ごとの精度検証や、登録希望者が自分で採取するために検体の質や量にバラつきが出ないかなどを実際に検証するため、「スワブトライアル」がおこなわれ、公式ホームページや公式SNSで告知して希望者を募り、実験的にスワブキットを使用したドナー登録を実施しました。日本骨髄バンクによると、この「スワブトライアル」で、目標としていたスワブによるドナー登録数3,000名が実現できたために、2026年3月26日でトライアルを終了してスワブキットの配布は終了し、従前の採血でのドナー登録を実施すると報告がありました。

▼採血を必要としないスワブ登録は、特に若年層のドナー確保に有効な手段だと言われています。献血ルームや献血バス、各地で実施されているドナー登録会に出向かなくても、オンラインで申し込むだけでスワブキットが自宅に郵送され、自分自身で綿棒で口の中をこすって粘膜の検体を採取し、専用封筒に入れてポストに投函すればドナー登録が完了します。2月末時点で約56,500人がドナー登録をしていますが、40歳以上の登録者が約半数を占め、現状では55歳で登録を卒業する数が新規登録者を上回っています。このままでは10年後にはドナープールが半減してしまいますので、若い方のドナー登録が急務となっています。大学でのドナー登録会拡大や、企業のドナー休暇制度の導入、大学での公欠制度導入など若年層が登録しやすい環境を作ることも必要です。

▼なお2026年4月1日から、骨髄提供時の最終同意で家族のサインは必要なくなりました。ドナーと家族の代表者が提供の意思を最後に確認する最終同意面談で、今まではドナー本人と家族による「最終同意書」へのサインが必要でしたが、これからはドナー本人のサインだけで、家族からの「最終同意書」へのサインは撤廃されました。ドナー登録説明員が使用する「ドナー登録案内マニュアル短縮版」に改訂が入りました。でもこれは家族の同意が必要なくなる訳ではありません。あくまでもサインの撤廃であって、ドナーのご家族が骨髄提供に同意をいただくことは今までどおり必須です。 (A)

7月会報発送 「おりおり」のお知らせ

日時：7月5日（日）14時より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しく下さい。

※今お読みいただいている「東京の会通信」を折り、封入・発送する作業です。簡単でどなたにでもできる作業です。いつも人手が不足しています。どうかご協力をお願いいたします。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※9月「おりおり」予定 9月6日（日）14時より

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和8年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	564,155	71,579	73,358
2-3月登録分	3,423	314	377
2-3月抹消数	4,673	589	-
実質登録増	▲1,250	▲275	-

患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計) 1,025,374人

ドナー登録抹消者数(累計) 461,219人

HLA適合報告ドナー数(累計) 409,282人

実質登録患者実数(現在) 1,721人(国内1,192人)

HLA適合患者数(累計) 58,247人(患者累計数の79.4%)

非血縁移植実施数 30,412例(2-3月実施168例)

郵便振替口座番号

00100-1-555195

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 骨髄バンクを支援する東京の会